

## 秋田大学 国際資源学部

### 資源学教育の国際拠点をめざす

世界を舞台に活躍するには、語学力や留学経験が必須のようにいわれているが、必ずしもそれだけではない。必ず専門性も求められる。その意味では、理工系学部や自然科学系は世界に直結する機会が多い。

この分野に、2014年4月新たな学部が開設される。秋田大学の国際資源学部である。これは従来の工学資源学部が理工学部と国際資源学部になるもので、国際資源学部は、国際資源学科1学科に3コース制、文系寄りの資源政策コース、理学寄りの資源地球科学コース、工学寄りの資源

開発環境コースからなる。

国際資源学部では、石油や鉱物資源、レアメタル、レアアースといった社会生活に欠かすことのできない天然資源に関する研究や教育が行われる。英語教育に力を入れ、専門科目をすべて英語講義化するそうだ。I-EAP（集中大学英语）という少数人数クラスの英語授業では、留学生を交えたプレゼンテーションもする。海外フィールドワークも必修化。資源国・産油国の鉱山な



キャンパス全景



フィールドワーク

どで4週間の研修をする。英語によるディスカッション、プレゼンテーション、ディベートが必修である。

日本における資源学教育の国際拠点機能を有し、「日本や世界の資源政策を担い折衝・交渉ができる人材」「世界をフィールドとして実践力を発揮できる技術人材」といった文理双方の人材育成を行う。国益のみならずまさに世界に貢献する学部といえそうだ。

## 会津大学

### コンピュータ理工学部

### 最先端の教育で会津から世界へ

福島県会津若松市にある、コンピュータ理工学部の単科大学。公立大学ということもあり、私立の同様の大学よりも学費の安さも魅力の一つである。だが魅力はそれだけではない。決して便利な地にあるとはいえないが、最先端のコンピュータ教育を取り入れており、設備は新しくしかも潤沢である。国際性という意味では、教員の4割が外国籍であり、卒業論文とその発表はすべて英語である。これはカッコつけてい

るのではない。最新のコンピュータサイエンスを学ぶには、日本語に訳された教科書の登場を待たず、すぐに英語の文献や情報を取り入れて学ばなければならないからだ。そもそも、コンピュータサイエンスは英語を中心に成り立っている。将来、コンピュータ関連企業に就職するにあたって、世界中のコンピュータエンジニアと仕事をする上で英語は必須である。

教員も優秀で、学内では日本の研究者

と外国人研究者が共同のプロジェクトを組み、世界的な研究が行われている。世界に向けて発表された研究成果（研究論文）は毎年平均300本。地方でこれだけの大学があるのは驚きだ。

最後に、福島県会津地方は原発の影響はなく、全国から学生が集まっても安全な環境であることを、科学的根拠を持ってPRしていることを申し添えておく。



外国人研究者とともに



プロジェクト研究の様子

#### TAIJI'S EYE 大学選択はここをチェック

##### Check Point 01

#### 双方向型の授業



一方的に何百人もの学生が黙って先生の話を聞く講義ばかりではなく、自分たちで調べる、議論する、発表するなどの機会のある授業は用意されているだろうか。参加型スタイルの授業を1年次から用意している大学も増えてきている。これからの社会で必要なのは、言われたことを黙ってやるだけでなく、自ら問題を発見し解決できる人材だ。